

みんなで「あつまり」「つながり」
「活躍する」ためのホットな情報
をお届け！

発行：甲府市協働支援センター

探究授業で協働のまち地域づくりを学ぶ

連携

甲府市
山梨英和高校



山梨英和高校の探究授業で、『地域づくりを学び地域力を育む』をテーマとした講座を実施しました。1年生約80人が参加したこの講義では、地域活動の取組や必要性を紹介し、人口減少や少子高齢化などにより、活動の担い手不足を始めとした地域課題を共有し、今後の地域への関わり方を考えてもらう機会としました。

今回の探究授業は山梨英和高校と甲府市が連携し、探究課題のテーマ設定を考える素材の一つとして『地域づくり』にフォーカス。市協働推進課職員が講師となり、「人口減少」「デジタル化等の進展と人とのつながりの希薄化」「価値観の変化」に触れながら、参加者には、学生・子育て・高齢者世代など様々な世代の立場に分かれ、それぞれの視点からどうすれば地域活動に参加しやすくなるのかワークショップ形式にて意見を出し合いました。

生徒の感想 他人事ではなく自分事として捉える

生徒の皆さんからは地域活動の必要性を理解し、『他人事ではなく、将来の自分のことを想像して考えることができた』や『地域活動に関わるために何をすべきか考えるきっかけになった』との感想が多く寄せられました。また、中学生や若者、高齢者などの各世代の立場になって地域を考えることで、『高校生として地域や高齢者の方に行き来することは何かを考えるきっかけになった』などの意見がでました。

地域活動を持続可能なものとして、将来の世代に住みやすいまちとして残すためには、地域に住む人や地域に関わりのある人など様々な世代が協力し合いながらまちづくりをしていくことが求められるようになっていきます。今回の講座を通じ、高校生の皆さんならではの視点やアイデアを活かし、今後の地域活動への参加につなげてください。



山梨ことうぶき勸学院 シニア世代が今の若者世代に身を置いて考える

山梨ことうぶき勸学院にて「協働によるまちづくりの推進」をテーマにした出前講座を実施しました。講座では、1960年代の地域コミュニティと現在の地域コミュニティの違いに着目して、シニア世代の皆さんが経験した1960年代のコミュニティである『支え合いの社会』を現代の地域活動に活かす方法を考えました。ワークショップを通して意見を交わした結果、次のようなアイデアが出されました。

- 地域でスマートフォン教室を開催し若手とシニアが交流する
- 地域の子供たちの保育園への送り迎えをシニアが行う
- 地域活動の非効率なところを見直し、現在に合った形に変える
- オンライン会議で地域活動への参加負担を減らしていく

参加された学生の皆さんは、これまでの経験とアイデアをまちづくりに活かしていきましょう。



▲ワークショップで意見を出し合う学生の皆さん

地域のニーズを发掘して × あつ活サポーターと連携

あつ活サポーター団体登録制度の運用を開始してから2年が経ちました。令和7年7月末時点で、今年度は4つの自治会が6件の利用をしています。利用があった自治会でのあつ活サポーターが活躍の様子を取材しました。

住吉地区自治会連合会 × 甲斐縁隊



住吉地区では春と夏に地元神社の例大祭が開催されました。今回は、あつ活サポーター団体として登録している学生ボランティア団体の『甲斐縁隊』が自治会をはじめ各種団体とともに例大祭の運営を支援しました。支援内容は、例大祭に参加してくれた方々への食事の配膳準備や子ども縁日での出店の運営補助などです。地域からは、「お祭り運営を縁の下で支えてくれるスタッフが減少してきているため、学生の皆さんのサポートは大変助かった。今後お願いしたい」との声が聞かれました。

富士川地区・住吉地区・大里地区自治会連合会 × 株式会社フォネット & 甲斐縁隊



富士川悠遊館を起点にZOOMを使い、住吉・大里の各悠遊館3か所合同でスマートフォン講座を実施しました。この3地区には活動拠点となる各悠遊館にWi-Fiが導入され、地域からの要望により実施しました。あつ活サポーター団体である『株式会社フォネット』の社員に講師となっただき、住吉・大里悠遊館には、あつ活サポーター団体である『甲斐縁隊』の2人が補助役として参加者をサポートしました。地域からは、「実用的な操作をわかりやすく教えてもらい大変役立つものだった。レベルアップした内容で次回開催を希望する」などの声がありました。

相川地区自治会連合会 × メガネスーパーアルプス通り甲府本店



相川地区では今年で3回目となる「相川あおぞらマルシェ」が開催されました。このマルシェは相川地区の各種団体が協力して実行委員会を作り、地域の皆さんのニーズをアンケート調査した結果、買い物支援をして欲しいとの声が多かったことから、それに応える形で開催に至った相川地区のイベントです。

このマルシェの運営に出店協力をしてくれたのは、あつ活サポーター団体である『メガネスーパーアルプス通り甲府本店』です。地域住民からは、「身近な場所でお店と同じメガネのメンテナンスサービスが受けられて助かった。来年もまたお願いしたい」などの声がありました。

あつ活サポーター団体登録制度

地域活動の担い手不足を、甲府市にサポーターとして登録してくれた民間企業や学生ボランティア団体が活動をサポートする制度です。

自治会役員の皆さん、地域活動を支援する制度「あつ活サポーター団体登録制度」を活用ください。

メリット

1. イベントに新しいアイデアを取入れられる
2. 既存の活動の見直し(効率化)が検討できる
3. 自治会活動の負担軽減が図れる
4. 従来の活動を継続できる

※ 詳しくは協働支援センターまでお電話いただくか
こちらからホームページをご覧ください▶



鈴木邸活動レポート 交流会を開催



▲赤ちゃんと県立大学生による交流



▲シニアと留学生による交流

春日地区の古民家『旧鈴木邸』において世代間交流行事と国際交流行事が行われました。『赤ちゃんと山梨県立大学の学生による交流会』と『ユニタス外語学院甲府校に通う留学生とシニアによる交流会』です。

今後は、地域住民とのランタン作りによる交流行事が予定されており、地域の商店へのランタン展示も計画されています。